

## [成果情報名] ミニトマト葉かび病抵抗性品種の特性

[要約] 9月上旬定植の促成ミニトマト栽培で、葉かび病抵抗性品種を導入する場合、単収・糖度ともに安定している系統は「SC7-040」で、「CF千果」は多収性、「CF小鈴SP」は小玉であるが糖度は安定している。裂果等不良果は、「サンチェリーピュア」と比較し、「SC7-040」が少なく、「CF小鈴SP」が同程度で、「CF千果」はやや多い。

[キーワード] 促成ミニトマト、葉かび病抵抗性品種、収量、糖度

[担当] 農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先] (代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4318

[区分] 野菜

[分類] 指導

---

## [背景・ねらい]

長崎県の促成ミニトマト栽培では、葉かび病の発生が問題となっており、収量・品質が低下している。現在、各産地で、葉かび病抵抗性品種の試作導入が行われているが、既存品種と比較した収量・品質について把握する必要がある。そこで、促成ミニトマト栽培で、かん水同時施肥による葉かび病抵抗性品種(系統)の選定及び収量・品質安定生産技術を確立する。

## [成果の内容・特徴]

1. 平均1果重は、「サンチェリーピュア(対照)」と「CF千果」が、「CF小鈴SP」、「SC7-040」よりやや大玉となる(表1)。
2. 可販収量(10a当たり)は、「CF千果」、「SC7-040」は「サンチェリーピュア(対照)」と同程度で、「CF小鈴SP」は76%と低い(表1)。
3. 裂果等不良果の発生割合は、「SC7-040」3%と最も少なく、「サンチェリーピュア(対照)」と「CF小鈴SP」が同程度で、「CF千果」は15%と多くなる(表1)。
4. 糖度(Brix)は、各品種(系統)とも年内は7度以下であるが、1月以降は品種(系統)間格差が大きくなり、特に「SC7-040」は2月以降9度前後となり最も高い。  
また、「CF小鈴SP」、「CF千果」は、2月以降は7.5度以上で推移し、「サンチェリーピュア」は全期間を通して7度以下で推移する(図1)。

## [成果の活用面・留意点]

1. 促成ミニトマト地域における葉かび病抵抗性品種の導入時に活用できる。
2. 現地導入時には、品種別特性や土壌条件等に応じた温度管理・施肥量等を決定する必要がある。

[具体的データ]

表1 10a当たり収量 単位:g、kg、%

品種・系統	可販収量 (kg/10a)	平均 1果重 (g) (比率)	不良果		合計	可販物 割合(%)
			裂果	4g未満		
SC7-040	13,479	94%	10.8	255 97	13,831	97%
CF小鈴SP	10,830	76%	11.4	697 31	11,557	94%
CF千果	14,201	99%	14.2	2,463 73	16,738	85%
サンチェリーピュア	14,313	100%	13.5	865 40	15,218	94%

収穫期間: 2009年11月6日～2010年6月30日

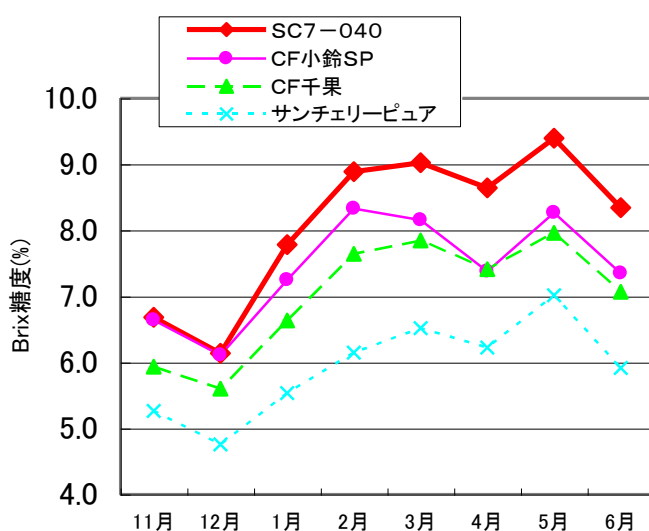


図1 糖度の推移

(耕種概要)

定植日: 2009年9月1日      栽植距離: 畝幅 200cm\*株間 50cm、2条、2,000株/10a、地床栽培  
 台木: サンチェリーピュア (キャンディ1号)、他品種・系統 (がんばる根11号)  
 基肥: 堆肥 3t、石灰資材・基肥は無施用  
 追肥: タクミックスA+タクミックスB 混用 (倍数 1,000倍、液肥開始日 10月28日～、点滴かん水により 2回/日)

[その他]

研究課題名: 「ブランド・ながさき」農産物育成事業

予算区分: 県単

研究期間: 2009～2011年度

研究担当者: 内田 善朗